

県立水戸商業高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道の精神を重んじ、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、情操豊かで創造性に富み、地域社会やビジネス界が求める幅広い知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
<p>学習指導、部活動、学校行事等に多くの生徒が積極的に参加することで知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育てることができた。</p> <p>主な資格の取得では、日商簿記検定2級合格者が35名、全商検定1級3種目以上合格者が227名であった。</p> <p>進路指導では公務員試験17名の合格等、就職、進学においても成果を上げることができた。しかし、生徒の学びが受動的であり、能動的な学びができていない。新学習指導要領を踏まえた批評・論述・討論などの学習活動を充実させる必要がある。</p> <p>開かれた学校づくりの推進として学校の情報をホームページ等で発信してきたが、十分な成果が得られなかった。今後は、生徒、保護者、地域の声を受け止め、連携・協力しながら推進していきたい。</p>	1	豊かな心を育む教育の推進	「道徳」の授業をとおして、互いに認め合い、励まし合う生徒指導の視点を取り入れた授業づくり・集団づくりを推進する。 しっかりと挨拶をすることで豊かな人間関係を築き、コミュニケーション能力を鍛える。	A	
	2	確かな学力の育成と専門性の深化	学習意欲を喚起する授業の工夫と一人一人が主体的に取り組む学習指導を実践する。 各学科に応じた専門的知識と技能を習得し、主体的な進路実現を図る。	B	
	3	社会の変化に対応した人材の育成	他者の困りごとを解決できるよう、起業家教育に取り組むとともに、情報化、グローバル化に対応した人材を育成する。 キャリア教育を充実させ、体験的な活動をとおした望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、地域理解を深めさせる。	B	
	4	特別活動、部活動の充実	ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として主体的、実践的な態度を育てる。 部活動をとおして、人との関わりを学び、充実した学校生活を送れるよう支援する。	A	
	5	開かれた学校づくりの推進	生徒、保護者、地域の声を受け止め、連携・協力して開かれた学校づくりを推進する。 地域とのふれあいを大切にし、異校種及び地域住民との交流を図る。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	学力意欲の喚起	明確な目標を持たせ、主体的な学習の定着を図る。	B	B 授業時間の確保	
		学習内容や習熟の程度に応じた学習形態や指導体制を工夫する。	B		
	成績不振者対策	理解度を確認しながら、わかりやすい授業の展開に努める。	A		習熟度別学習の検討
		学年、教科任せにせず、学校全体で指導にあたる。	A		明確なビジョンと共通意識
	進学対策	3年間を見据えた計画的な進路指導を実践する。	B		学習到達目標の設定
		一般入試及び大学進学後に困らない学力を身に付けさせる。	B		探究的思考能力の育成

	学習に対する達成感をもたせる	全商検定試験1級の合格者数を増やす。(3種目以上1級合格者235名以上) 日商簿記検定2級の合格者数を増やす。(80名以上)	A		地域社会で活躍できる人材の育成		
	道徳教育の推進	道徳の授業を通して、自分自身や未来を見つめさせ、将来への夢(進路実現)を育む。	B		探究活動を取り入れた道徳		
進路指導	能力・適性に応じた進路指導の充実	インターンシップや企業見学等の実施により、早期に職業観及び勤労観を育成する。 学年に応じた適性検査を実施し自己理解を図る。	A	A	キャリア教育の充実 自己の適性を考える より具体的な進路意識		
	進路意識の高揚	進路講演会や進路指導集会、大学見学等を実施して、早期に進路目標を設定し目標に向け努力する。 進学か就職かを1年次に80%以上、2年次に90%以上の生徒が決めるようにする。 四大・短大・公務員・高看等の3年次の模試参加率を高める。(100%) 課題を定期的に出すことにより、自宅等での学習時間を増やす。	B		外部講師等の活用 小論文対策 課題提供の工夫		
		情報提供の拡大	進学・就職に関する情報を適宜提供し、進路決定に役立てる。 進学・就職の現役合格率は95%以上を目指す。 積極的な会社訪問・求人開拓を行うとともに、生徒自らも情報収集を行う。		A	タイムリーな情報提供 合格率100%の実現 新規求人開拓の継続	
			個別面接を重視した意欲の高揚		できるだけ早期に就職・進学希望者全員と個別面談し、希望状況を把握する。その後も適宜、面接や相談を実施し、生徒一人一人のニーズに応える。	A	個別面談の実施等により生徒理解を深める
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	毎月全職員による登校指導を実施、生徒の現状把握・職員間の共通理解をすすめることで、適切なアドバイスの実現を目指し、基本的な生活習慣の確立を図る。 友人や教職員と元気に挨拶を交わしコミュニケーションをとる習慣を身に付けさせ、連帯感を高め相互理解を深め、生徒一人一人にとっての高校生活の質や価値を高める。		A	B	教職員の共通理解と意識の高揚 挨拶の励行
			盗難事故等の防止		毎日校内巡視指導を実施し、貴重品の自己管理・教室移動時の戸締まり等を徹底させ、盗難事故の未然防止を図る。 年2回の自転車点検及び毎月1週間の駐輪場巡視を実施し、駐輪マナーの向上・自転車盗難事故防止を図る。		A
		服装指導の徹底	日常的な指導に加え、毎月1回全校一斉の服装指導を通して、スカート丈、ズボン裾、ネクタイ、校章、学年章、台座等の正しい装着について指導し、制服の着こなし等のマナーアップを図る。		B		高校生らしさと人格の感性への意識向上
交通ルールへの遵守と事故防止		毎月登下校時の校外巡視指導を実施し、交通ルールの遵守とマナーアップを徹底するとともに交通事故等の未然防止を図る。	B	自転車運転中の交通マナーの徹底と事故の未然防止			
特別活動		生徒会活動の活性化	生徒の自主的・自立的な運営を図り、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。本部役員の自己研修を推進し、離任式及び部活動紹介及びその他の学校行事の運営のレベルアップに努める。	A	A		生徒会役員向けマナー、モラル等のレベルアップのための研修会の実施
自主的な活動による公共の精神を養う	ホームルーム活動を充実させ、自主的な活動による豊かな心を育むことを目標に奉仕体験を通じ、望ましい勤労観・職業観を育成する。	B	学年間、担任間の温度差是正				

	学校生活を楽しみ、高校生としての自覚のある行動と、行事の実施	コミュニケーション能力の育成と人間関係を確立させる。 ホームルーム活動や学校生活の活性化、機関誌の内容を充実させる。 生徒会主催行事の充実と自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。	A		生徒会主催行事とホームルームのリンク性を向上させる
	部活動の活性化	部活動への参加率を高め、途中退部者を減少させる。 すべての部活動で県大会以上の出場を目指す。	A		加入率の維持 部活動外活動生徒の支援
教務	学力向上と応用力の育成	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	B	B	PDCAサイクル活用した授業改善 自主的な研修・研究の取組 突然の年休等の対応 行事の整理と内容の見直し 将来構想への取組 探究活動を取り入れた道徳の推進 時期、回数、模範授業の充実 学校公開の回数増と、情報の発信の拡大 学年、担任との連携強化 外部資源としての活用 推進リーダーの育成
		授業力向上のため、職員間の授業参観や校内研修を積極的に行う。	B		
	授業時数の確保	出張・年休の際の授業振り替えをする。	A		
		学校行事の日程調整を行い、曜日振替を実施し、授業時間の確保にする。	B		
	教育課程の検討	社会の変化と生徒の多様な進路に対応した教育課程を編成する。	B		
	道徳教育の充実	互いに認め合い、励まし合う生徒指導の視点を取り入れた授業づくり・集団づくりを推進する。	B		
	学校説明会の充実と広報活動の推進	在校生と中学生のコミュニケーションの場を設け、模擬授業や部活動体験をとおして水戸商業高校への関心が高まるよう努める。	A		
		生徒、保護者、地域の声を受け止め、開かれた学校づくりを推進しながら、情報提供を積極的に行なう。			
	奨学金制度の周知徹底	生徒の奨学生募集と事務手続きについて、生徒及び保護者に周知徹底する。	A		
	教育実習生への指導体制の充実	これからの教育を担う教育実習生のために、指導の体制と指導内容の一層の充実を図る。	A		
校内研修の推進	時機に応じた教員の研修を推進する。	B			
渉外	PTA奨学会総会とPTAの充実	PTA奨学会総会並びに学年PTAの望ましい在り方の再検討と、保護者の出席率の向上に努める。	A	B	PTA奨学会総会を魅力あるものとし、さらなる出席率向上 研修旅行の充実 魅力ある広報誌作成 関連行事への参加協力 本部役員との連携充実 実行委員会の内容充実
		保護者と学校・地域の連携を図る。	B		
	PTA奨学会の資質の向上並びに広報活動の充実	広報紙の内容を充実させる。	B		
		高P連主催の行事等へ積極的に参加する。高P連関係情報を会員へ周知する。	A		
	実行委員会、学年PTAの活性化	本部役員との連携を図る。実行委員会の内容を検討する。	A		
学級・学年委員等の情報交換を積極的に行う。		B			
保健環境	健康管理の推進	定期健康診断の実施及びアフターケアにより、生徒の健康管理及び増進を図る。保健委員会活動により生徒の健康管理意識の啓発に努める。また AED 研修を全生徒に実施し、救急法の理解を深めると共に、国内における救命率の向上を目指す。	B	B	教職員の救急法の理解と実践意識の高揚 生徒の主体性ある環境美化活動
	学校環境の整備と美化の推進	全教職員及び生徒の校内美化活動への共通理解を図り、整備委員会による環境整備活動を推進し、清掃活動を徹底する。	B		

図書	図書館・視聴覚室の環境整備	図書館・視聴覚室の使いやすさの向上をめざし、環境整備をはかる。	B	B	生徒が過ごしやすい環境づくりの工夫
	図書・視聴覚資料の充実	古くなり活用されない資料の廃棄を進め、図書・視聴覚資料の更新・充実をはかる。	B		資料の廃棄を積極的に行い、資料の更新をめざす
	図書館運営の円滑化	図書委員の活動が、貸出カウンターだけでなく、図書の受け入れや蔵書管理の業務にも参加できるように活動範囲を拡大する。	A		図書の受け入れ業務に生徒が積極的に関わる体制作り
	広報活動の強化	新入生に向けたオリエンテーション活動を充実させ、新刊案内を含めた広報誌の発行を増やす。	A		新刊案内の定期発行化と広報誌の紙面の充実
	学級図書の整備	引きつづき学級文庫の整備をし、クラス・生徒が積極的に活用できる環境を整える。	B		今後の整備の是非の検討
	図書委員会・放送委員会の自主的活動の推進	図書委員の活動内容を見直し、図書館運営の効率化をはかる。	A		生徒の関わる業務の再検討
		放送委員の活動を活性化し、視聴覚室の利用促進、校内放送の充実をはかる。	B		活動内容の再検討。
商業指導	目的意識の高揚と学習意欲の向上（各学科に応じた高い目的意識を持たせる）	商業科は、会計活用能力やマーケティング能力の育成等を通じて、ビジネスに必要とされる基本的な資質を養う。	B	B	社会ニュース事例の分析力をつける
		情報ビジネス科は、情報処理活用能力や会計活用能力の育成等を通じて、情報通信社会に積極的に対応できる人間を育成する。	B		アプリやホームページ作成など発信する力をつけたい
		国際ビジネス科は、英語でのコミュニケーション能力や会計活用能力の育成等を通じて、国際的なビジネスに対応できる人間を育成する。	B		英語での会計報告書作成を検討していく
	生徒に応じた教科指導の充実	商業科目の選択制、課題研究、総合的な学習の時間などで、生徒の興味や関心・進路に対応する。また、社会人講師の招聘、一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業を積極的に活用する。	B		主体的に探究する力をつける体制づくりをする
	各学科の目標や教育課程に応じた資格取得の奨励	商業科は、全商簿記検定1級、全商商業経済検定1級、全商情報処理検定（ビジネス情報部門）1級、全商珠算電卓検定1級、日商簿記2級等の資格取得を目指す。	A		各学科とも、アクティブラーニングの定着と、より綿密な授業計画をし、多くの資格取得を目指す
		情報ビジネス科は、全商情報処理検定（プログラミング部門）1級、全商情報処理検定（ビジネス情報部門）1級、全商簿記検定1級、全商珠算電卓検定1級、情報処理技術者試験、日商簿記2級等の資格取得を目指す。	A		
		国際ビジネス科は、全商英語検定1級、全商簿記検定1級、全商珠算電卓検定1級、STEP英検、日商簿記2級等の資格取得を目指す。	A		
	高度な資格取得と新教育課程・評価の研究	日商簿記1級や各学科が目標とする高度な資格取得を達成できたかの分析と評価をし、教育課程や指導・評価方法の見直しを図る。	B		高度資格取得に向けた3年間の詳細な指導計画をたてる
	キャリア教育の充実	2年生で実施するインターンシップに向け、全クラスを対象に進路学習を行なう。	B		全クラス実施に向け体制を整える
		インターンシップに向けて、職業意識の高揚を図るため、ビジネスマナーや職業倫理の積極的指導を行う。	B		外部講師による事前指導を実施する
地域企業や商工会議所等と連携して水戸商版デュアルシステムを実施し、生徒のキャリ		A	職種と受け入れ企業数を増や		

		ア教育の充実を目指す。			す
第1学年	基本的生活習慣の確立とビジネスマナーの育成	落ち着きある教育環境を整備し、規則正しい生活習慣のもと日々の授業を大切にす姿勢の育成を図る。また、ビジネスマナーに基づく身だしなみ・礼法・言葉遣い等の育成を図る。	A	A	社会人を意識した挨拶及びマナーを身に付けさせる
	進路ガイダンス、個人面談による進路指導の推進	一人一人の能力・適性に応じた進路指導の推進と、将来における望ましい勤労観・職業観の育成を図る。あわせて、人としてのあり方・生き方について考えを深めさせる。	A		自らの能力・適性に応じた進路希望を具体的に考えさせる。
	資格取得による専門性の深化	商業に関する基礎知識・技能等の習得を図るとともに、検定資格等の取得を通して専門性の深化を図る。	B		社会との接続を意識した学びと自主性に基づいた専門性の追求
第2学年	基本的生活習慣の確立	ホームルームや学年集会、授業などを通して、挨拶や言葉遣いなどの礼儀作法やマナーを身につけさせる。	A	B	状況に応じた挨拶を身につけさせる。
	自宅学習の習慣化	手帳を活用して自己管理能力を身につけさせるとともに、上級資格の取得を目標にして自宅での予習・復習を習慣化させる。	B		自己管理能力の育成を通じて、自宅学習の習慣化を図る。
	進路選択に向けた意識の高揚	外部講師の講話などを通して、職業意識を高揚させる。また、ホームルームや学年集会、面談等を通じて、進路実現に向けた意識の向上を図る。	B		進路について理解を深め、早期の進路希望を決めさせる。
第3学年	進路希望の実現を図る	就職指導：新たな就職先の開拓及び個別面談、模擬試験、模擬面接を効果的に実施する。 進学指導：進学課外、個別面談、模擬試験、小論文指導、模擬面接を効果的に実施する。	A	A	早期進路決定による進路実現
	上級資格検定を取得させる	上級検定への受検を積極的に進めるとともに、課外や個別指導を実施する。	B		計画的な学習計画・実践
	最上級生としての自覚と誇りを持たせる	社会人となるための準備として、自主自立の精神を高め、判断力や実践力の強化・指導をする。	A		進路決定後の自主自立の精神を向上させる
	高校生活の集大成を図る	希望進路の実現はもとより、最終学年として、学校行事等に積極的に参加させ、企画・実践を通して達成感を持たせる。	A		創造性を駆使した学校行事への参加
	自宅学習の習慣化	各種の資格取得、また自己の進路を実現させるために、具体的に学習法を考えさせ、実践させる。	B		自己進路実現のための意識付け
国語	文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める	教科書やその他の文献における近代以降の文章を的確に理解・解釈し、自ら考え、表現する力を身につけさせる。 古典を読解するための基礎的な学力と古典作品を楽しむ態度を養う。	A	A	複数の資料と組み合わせることで、総合的な読解力を向上させる。古文の語彙力の定着を図る。
	伝え合う力を高めるとともにものの見方、感じ方、考え方を深める表現力を育てる	授業を通して文章を書く機会を持たせ、進路実現に向け自己の考えを表現できるようにする。 発表やスピーチなどで自分の感想や意見を述べるができるようにする。	A		発表・表現と相互評価を数多く行い、個人の考えを他の者も共有する活動機会を増やす。
	言語文化に対する関心を深め、自ら学ぶ態度を育てる	日常生活のなかで、言語文化に対する興味や関心を持たせながら、積極的に学習に取り組めるように工夫する。	B		新聞等のメディアの活用を導入する。
	指導法の研究	授業時間の確保に努め、基礎学力の定着を図る。 生徒の進路実現を支援し、生徒の習熟度に応じた効果的な指導法・教材作りをする。	A		暦・行事等による授業時間のクラス間の格差への対応。
地歴公民	基礎学力の向上	視聴覚教材やプリントを活用し、より効果的に基礎学力の向上を図る。	A	A	補助教材を活用して思考力を

					育成し、深い理解につなげる。
	成績不振者対策	成績不振者に対して課題プリントの配布や課外を実施し、学習の動機付けを図る。	A		課題プリントや課外、追試を行い、学習の動機付けを図る。
	進学対策	小論文対策として、新聞を読む機会を設け、社会現象について多面的に考察させる。	B		新聞を読む機会を設け、多面的に考察させ、時事問題を考查に取り入れる。
	学習意欲の向上	学習内容に関連する身近な話題を投げかけたり、視聴覚教材や補助教材の活用を通して社会的事象に対する関心を高める。	A		地域や生徒自身にとって身近な話題を投げかけ、社会現象に関する関心を高める。
理科	科学リテラシーの向上	新聞やニュースなどの身近な情報を活用し、科学現象への関心を高める。	B	B	授業との関連性
	成績不振者対策	指導法や教材を工夫し、分かりやすい授業の展開に努める。また、理解度の低い生徒には、補習等を行う。	B		不振者への個別指導等
	進路達成に係わる学力の向上	看護・医療系・公務員・就職試験等に必要な内容についての補習等を充実させる。	B		専門性を高める
数学	基礎学力の向上と自宅学習の習慣化	演習の時間を十分に確保する。 授業の後に課題を与えて自宅学習の習慣化を図る。	B	B	2,3年生の単位数が少なく。授業時間の確保が難しかった。
	成績不振者対策	必要に応じて個別指導を行い、基礎学力の向上を図る。	A		基礎学力に問題のある生徒が増えてきている。今年度は1年生で補講を行なったが、来年度も引き続き補講を行う必要がある。
	進路指導対策	選択授業(数学A)を実施し、就職試験、公務員試験、進学の受験にも対応できるようにする。	A		今年は希望者が多かった。複数講座の解説も検討したい。
	数学好きの生徒を増やす	数学を学ぶ楽しさを実感できる授業の実践に努める。	B		基本的な事項に対する授業に終始し、楽しさを十分伝えることができなかった。
体育	運動技能を高める	生徒一人一人の能力に応じて、運動に興味をもたせる。 運動技能を習得したり、高めたりする喜びを味わう。	A	A	選択制授業の有効利用
	体力の向上を図る	体育理論と関連させながら、体力の重要性を認識させ、体力を高めるための運動を身につけさせる。	B		1学年生徒の体力強化
	公正、協力、責任などの態度を育てる	各種の運動の合理的な実践を通して、運動をする態度の育成を目指す。 服装を整え、安全を考慮して公正で責任ある態度を身につけさせる。	A		安全指導の徹底を継続する
	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指す	運動の習慣化を目指しながら、運動の楽しさや喜びを深く味わわせる。 新指導要領に沿った生涯体育の推進を図る。	A		スポーツ苦手な生徒への対応を継続検討する
保健	健康の保持増進のための実践力の育成	健康・安全についての総合的な理解を通して、人間としてのあり方や、生き方、科学的な思考と正しい判断に基づく意思決定や行動選択ができるようにする。	A		教科書の他に副教材などの有効活用

	明るく豊かで活力ある生活を営む態度やたくましい心身を育てる	生涯を通じて、自らの心とからだの健康を適切に自己管理し、改善していく資質や能力を育てる。	A	A	体育授業とのリンク性の追求
英語	単語、熟語、発音、アクセントを習得させる	各学年週1回単語テストを実施したり、単語練習を用紙に書かせて課題にして提出させたりして語彙力を高める。 文字からだけでなく、CDからの音声によって発音やアクセントを確認させる。	A	A	語彙力のさらなる向上。 課題の提出率の向上。
	コミュニケーション能力を高める	全ての授業において、音読をさせたりペアワークに取り組みせたりすることで、自分の身の周りのことを英語で表現できるようにし、英語表現の楽しさを理解させる。	A		より多く生徒が積極的に活動に参加するよう工夫をする。
	読解力を高める	教科書や英字新聞、英語検定等の問題集を使用してできるだけ速く、多量にそして正確に読めるように訓練する。内容を深く吟味して英文読解の楽しさを理解させる。	A		教科書以外の教材をどのように活用するか考える。
	評価法の確立	定期考査の点数以外に、平常点を積極的に用い、四技能の観点から総合的に評価する。特に英語会話においては、定期考査のみならずインタビューテストの結果やコミュニケーションを積極的に取ろうとする態度を重視し、筆記テストだけによらない評価方法の確立を図る。	A		英語会話の授業における評価方法の工夫・確立。
	自宅学習の習慣	ワークブック等の副教材を活用し、新出単語・語句を調べさせたり、プリントで教科書の基本事項を確実に押さえさせたりするなどして家庭学習の定着を図る。	A		生徒に提出させることにより定着度を確認する。
家庭	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活に関する知識と技術を習得させ、家庭生活の充実・向上を図る能力を育成し、生きる力を育てる	教科書・資料・ノート等で家庭生活のあり方などについて理解させるとともに考えさせ、男女が協力して家庭を築くことができる実践的態度を身につけさせる。	A	A	アクティブラーニング等の授業研究
		調理実習を通して、食生活に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、快適な生活を営むことができる力を育てる。	A		調理実習における基礎内容の技術習得の工夫
		被服実習を通して、衣生活に必要な基礎的な知識・技術を習得させ、快適な生活を営むことができる力を育てる。	A		作品評価・展示の工夫
		DVD等の情報機器を利用して、最新の情報を活かし学習効果を高める。	B		最新情報の研修
商業	基礎学力の向上ならびに職業倫理の向上を図る	1年次に商業の基礎・基本を身につけさせるとともに2・3年次をとおしてビジネスマナーや職業倫理観の向上を図る。情報機器を効果的に活用し、コミュニケーション力を高める授業の工夫改善に努める。	A	A	授業をアクティブラーニング等で、より実施できるよう改善と工夫を促進したい。
	成績不振者への対策	学習の理解度の低い生徒を早期に発見し、補習等の対応を行い、学習意欲の向上と知識の定着を図る。段階的な学習課題を提出させ、添削指導等を行う。	A		課外や特別時間割で習熟度別学習の検討。
	上級資格取得を用いた専門性の深化と社会への対応	商業科：全商簿記検定1級・全商商業経済検定1級・全商情報処理検定試験（ビジネス情報部門）1級・全商珠算電卓検定1級・日商簿記2級等の取得を目指す。 情報ビジネス科：全商情報処理検定（プログラミング部門、ビジネス情報部門）1級・全商簿記検定1級・情報処理技術者試験・日商簿記2級等の取得を目指す。 国際ビジネス科：全商英語検定1級・全商簿記検定1級・STEP英検・日商簿記2級等	A		身につけた会計活用能力・情報活用能力・英語活用能力を使い、実社会の問題等を参考にしながら分析力をさらに育みたい。

		の取得を目指す。 身につけた会計活用能力・情報活用能力・英語活用能力をビジネス界の発展に活用できるように育成する。			
	職業意識の向上と地域社会との共生	地域社会や産業界との連携と協力により，2年生に就業体験(インターシップ)を実施する。また，一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業で，水戸商版デュアルシステムを行い，生徒の職業観や勤労観の育成と地域への参加を実践することで，社会に開かれた学校づくりを目指す。	B		インターシップを生徒主導かつ全員実施し，将来につながるようにしたい。

※ 評価規準：A（十分にできた）・B（普通）・C（不十分である）